

## 実験薬理学「実践治療薬」の刊行

日本薬理学会では、各種疾患の治療薬について最新の開発状況や有効性を読者に提供することを目的として“治療薬シリーズ”を企画し、2006年から2009年に日本薬理学雑誌に連載致しました。このシリーズは大変なご好評をいただき、さらに教科書のようにまとめてほしいとの要望が多数寄せられました。このたび学会活動の一環として、創薬の観点から重要と考えられる疾患を取り上げ、最新の情報に更新し単行本化いたしました。

本書では、がん（第I編）、骨粗鬆症・関節リウマチ（第II編）、疼痛（第III編）、細菌、真菌、ウイルス感染症（第IV編）、気管支喘息（第V編）、高血圧症、不整脈（第VI編）、糖尿病、脂質異常症（第VII編）、排尿障害（第VIII編）、うつ病、統合失調症（第IX編）、アルツハイマー病、片頭痛（第X編）を取り上げました。創薬研究に携わる製薬企業を中心とした基礎の研究者と、臨床の現場で薬を使って治療を実践しておられる臨床の研究者により、渾身を込めた最新情報の提供がされています。基礎では、各疾患創薬における標的分子、開発中の薬剤と作用機序を含む特徴、薬効評価に用いる病態モデルと評価法の話題が、臨床では、既存薬の有効性、臨床の治療現場から今後望まれる薬剤について執筆いただきました。

本書は、大学の講義やセミナーの資料・教科書として利用される価値が高いと考えております。企業の創薬研究者、大学や公的機関の医薬品の基礎研究者、臨床研究者、さらに将来研究者を目指す学部、大学院の学生や薬剤師の方にも興味を持っていただける内容となっております。

2012年7月

公益社団法人日本薬理学会

監修 編集責任者

赤池 昭紀 奥山 茂

飯野 正光 斉藤亜紀良

岩尾 洋 山田 久陽